

千倉協事務局からのお知らせ

令和7年10月31日

(302)

千葉県倉庫協会事務局

TEL: 043-307-4760 FAX: 043-305-4930

《今月号の記事》

1. 新社員のための物流入門講座の開催
2. 国際物流入門研修の開催
3. 倉庫業務基礎研修の開催
4. 第56回倉友会開催（袖ヶ浦カンツリー倶楽部・新袖コースにて）
5. 令和7年度第1回品目別部会・全体会議の開催
6. 今後の行事予定
7. 倉庫業の自主監査のお願い：11月・12月は自主監査月間です。
8. 令和7年度第1回品目別部会各部会発表内容について

☆ 研修・セミナーの案内等はeメール・電話等により請求いただければ、再送いたします。

☆ このお知らせは各会員の連絡担当者の方に配布しております。皆様にご覧になれるようご配慮をお願いいたします。

☆ 異動等で連絡担当者が変更になる場合及びメールアドレスが変更になる場合には、ご連絡をお願いいたします。

★関倉連5協会とは、茨城、群馬、栃木、山梨と千葉県倉庫協会です。

6協会とは東京倉庫協会を加え、7協会とは神奈川倉庫協会を加えます。

1. 新社員のための物流入門講座の開催

日 時 10月17日（火金）13時～17時
場 所 東陽パークビル6F 会議室
講 師 山田経営コンサルティング事務所 代表 山田 健 氏

研修内容 物流の各輸送モードの特徴を学んだうえ、物流の要である倉庫・物流センターの重要な役割を学んでいただきました。
(千葉からの参加は 6名)

2. 国際物流入門研修の開催

日 時 10月21日（火）13時～17時
場 所 東陽パークビル6F 会議室
講 師 山田経営コンサルティング事務所 代表 山田 健 氏

研修内容 この研修は、港湾業務、航空フォワーディング業務など国際物流部門で最低限必要な国際物流に関する基礎知識を習得いただく目的の研修でした。
(千葉からの参加は 4名)

3. 倉庫業務基礎研修の開催

日 時	10月29日（水）13時～17時
場 所	東陽パークビル6F 会議室
講 師	G I N Z A コンサルティング(株) 講師 山崎 敬司 氏
研修内容	この研修は、倉庫業の基本から、受託・入庫・保管・出庫業務、料金の計算方法等、新入社員をはじめとする倉庫業務未経験者に必要な倉庫業務の知識を習得していただきました。 (千葉からの参加は 7名)

4. 第56回倉友会開催（袖ヶ浦カンツリー倶楽部・新袖コースにて）

倉友会は10月16日（木）袖ヶ浦カンツリー倶楽部・新袖コースにおいて開催されました。8組32名の方々により行われました。第56回倉友会の優勝は、横田 誠様（山九株式会社）でした。ご参加の皆さんありがとうございました。
会員の皆様、各賞用意しておりますので、次回の倉友会には是非ご参加をお願いいたします。

5. 令和7年度第1回品目別部会・全体会議の開催

日 時	10月8日（水）15：30～17：00
場 所	ホテルグリーンタワー幕張
	4分会の会議には51名の方が参加いたしました。
	様々な意見交換を行い有意義な会議となりました。

6. 今後の行事予定

11月 5日（火）	物流企業のための生成AI活用研修（東陽パークビル）
11月 11日（火）	物流ABC実務専門研修Ⅲケーススタディ（東陽パークビル）
11月 12日（水）	倉庫業務フォローアップ研修（東陽パークビル）
11月 18日（火）	倉庫管理主任者講習会（全日通霞が関ビル）
11月 26日（水）	倉庫管理主任者フォローアップ研修（東陽パークビル）
12月 3日（水）	第3回総務委員会・第226回理事会
12月 8日（月）	倉庫業務改善管理者研修（東陽パークビル）
1月 20日（火）	プロジェクトマネジメント入門研修（東陽パークビル）
1月 21日（水）	午後賀詞交歎会（ホテルグリーンタワー幕張）
1月 21日（水）	倉庫法令実務専門研修（東陽パークビル）
2月 20日（水）	安全管理実務講習会（東陽パークビル）

7. 倉庫業の自主監査のお願い：11月・12月は自主監査月間です

10月29日付け倉庫管理指導委員会 長尾委員長からの文書により、11月から12月の2カ月間を自主監査の実施期間とし、会員の皆様方に監査計画と監査票等を送付しております。

今年も倉庫管理主任者は、監査票により自主監査を行い、「自主監査結果の概要報告書」に取りまとめていただき、令和8年1月30日までに、協会事務局まで報告をお願いいたします。

この制度は、平成14年に倉庫業法の事業許可制が登録制に規制緩和されたことに伴い、規制緩和の代償として、自己責任での事故防止を目的として、日倉協が音頭を取り、国土交通省の指導を受けながら実施することとしたものです。

倉庫（業）の不具合は、改めて点検して見ないと分からないものもありますので、この機会に自主点検を行い、不具合が発見された場合には、早急に改善するなど事故防止に努めるようお願いいたします。

結果概要報告書を提出いただいた会員の方には、報告書の（2）に記載された営業所数分について、「倉庫監査実施済証」（日本倉庫協会発行）を送付いたします。

～結果概要報告書を令和8年1月30日までに、事務局に報告下さい～

8. 令和7年度第1回品目別部会 各部会発表内容について

A. 【穀肥・食料品部会 報告】

本日の穀肥・食料品部会は、12社15名が参加されました。

1 米穀関係

(1) 令和7年6月末現在の在庫状況等

ア 米 29,755トン（前年同期 25,928トン、3,827トン増加、114.8%）

イ 令和7年4月～6月の3ヶ月平均

① 入庫動向 7,682トン 前年同期 7,037トン 645トン増加

② 出庫動向 8,593トン 前年同期 7,959トン 634トン増加

③ 残高動向 29,587トン 前年同期 26,285トン 3,302トン増加

(2) 会員各社の現況と課題等

ア 備蓄米について

備蓄米は5年保管して出庫という約束で入庫しましたが、米価格の高騰で放出することになりました。

出庫に際し①全て解袋し、カビ監視担当者にカビ状異物がないことをメッシュチェックで確認、②サンプリングを行い分析機関に送付しカビ毒検査を実施して安全が確認された物を出庫します。

上記の手順を踏むためオーダーが出てもすぐ出庫とはなりません。

農林水産省は、8月20日までに全て出庫させるため、荷役料金を3倍にするとしましたが、能力の限界があり全量は困難でした。

マスコミは倉庫の対応が悪いように伝えてますが現状を正しく把握していません。

現在は、備蓄米の空いたスペースに新米を入庫できましたが、東北の倉庫は空っぽで大変だと聞いています。

イ トランプ関税関係

アメリカ産米を75%増やすとういう約束をされたため、MA米のアメリカ産米の入札が増加しています。

千葉港は、バースの問題もありタイ産米が主流ですがアメリカ産米となると本船の積載量が2港揚げで、タイ7,000トンからアメリカ13,000トンに増えます。

千葉港では受入倉庫が1倉庫のため、数量が増えることは、入港に向けた空スペースの確保が難しくなります。

2 麦関係

(1) 令和7年6月末現在の在庫状況等

ア 麦 166,080トン（前年同期168,531トン、▲2,451トン減少、98.5%）

イ 令和7年4月～6月の3ヶ月平均

① 入庫動向 93,841トン、前年同期 95,744トン ▲1,903トン減少

② 出庫動向 87,191トン、前年同期 98,278トン ▲11,087トン減少

③ 残高動向 166,449トン、前年同期 177,402トン ▲10,953トン減少

(2) 会員各社の現況と課題等

ア 小麦本船入港により発生するダストの処理ができず、上屋テント倉庫に入れ満庫状態です。虫発生の問題もあり早期の出庫対応をお願いしている。

イ トウモロコシを保管していますが、夏場の高温により家畜が餌を食べないため出庫が低下した。

ウ サイロの政府荷役料を今年25%上げて頂いた。

3 飲料関係

(1) 令和7年6月末現在の在庫状況等

ア 飲料 73,201トン（前年同期78,413トン、▲5,212トン減少、93.4%）

イ 令和7年4月～6月の3ヶ月平均

① 入庫動向 133,934トン、前年同期 131,998トン 1,936トン増加

② 出庫動向 130,436トン、前年同期 125,666トン 4,770トン増加

③ 残高動向 75,462トン、前年同期 74,219トン 1,243トン増加

(2) 会員各社の現況と課題等

ア 酒類の入出庫は、スーパーの缶酎ハイ等のPB商品が好調で6月は前年比120%でした。

イ アサヒのサイバー攻撃により当初は出荷に影響がでましたが現在は通常に戻ってきま

した。

- ウ 4月の給与改定で制度を見直し 10%の賃上げを行った。
- エ 荷主は、コロナ以降在庫を持たず回している。在庫が積み上がらないため保管収入が上がらない。
- オ ドライバーの待機時間問題で荷主の指示により、ドライバーが行っていたラップ巻きを倉庫側で行うことになったが料金に転嫁できない。来年度の契約で改善したい。

4 缶詰・びん詰

(1) 令和7年6月末現在の在庫状況等

- ア 缶詰・びん詰 5,592 トン（前年同期 5,473 トン、119 トン増加、102.2%）
- イ 令和7年4月～6月の3ヶ月平均
 - ① 入庫動向 3,137 トン、前年同期 2,853 トン 284 トン増加
 - ② 出庫動向 3,014 トン、前年同期 2,934 トン 80 トン増加
 - ③ 残高動向 5,203 トン、前年同期 5,325 トン ▲122 トン減少

(2) 会員各社の現況と課題等

海外レストラン向けのキムチの素、ラー油が好調で多く出庫していますが、商品値上げで前年プラスになりました。

5 質疑

- Q 2026年4月からは、一定規模以上の特定荷主に「物流統括管理者（CLO）」の選任が義務付けられますが検討されている社はありますか。
- A 南総通運では検討しています。

B. 【原材料部会 報告】

本日の原材料部会は、加盟5店社6名で開催いたしました。

当部会では、「木材、鉄鋼、非鉄金属」について、2025年度の動向を議論しました。特に、アンチダンピング関税やアメリカの関税政策、チャイナリスクおよび製鉄工場の動向といったグローバルなリスク要因が国内需給に与える影響を重点的に意見交換しました。

1. 木材について、

上期は需要拡大により取扱量は増加しましたが、円安ドル高や物流コストの上昇が価格を不安定化させました。特に輸入合板では、産地からの配船集中による入庫急増に対し、国内の住宅着工低調により出庫が伸び悩み、港湾倉庫の在庫が高水準に積み上がりました。このリスクへの対処として、国産材の利用シフトが顕著に加速しています。下期も木材需要は堅調な見込みですが、世界経済やアメリカの関税政策の影響を受け、価格変動リスクは継続し、国産材の活用率はさらに高まると予測されます。輸入合板の在庫は高水準で推移する見通しです。しかし、この高在庫

と並行し、商社は原木不足、産地コスト急騰、円安による輸入コスト高を回避するため仕入れを抑制すると予測され、産地からの配船減少、入庫量が大幅に減少する可能性が懸念されます。2025年度の動向は、建築基準法改正による中規模建築物の木造化・木質化需要という内需の追い風を受けながらも、円安とエネルギー価格高騰による輸入コスト増と価格不安定化という構造的な課題に直面すると考えられます。

2. 鉄鋼について、

上期は国産鉄鋼の取扱量が低調に推移しました。入出庫量共に少なく在庫量も減少傾向にあり、この実需の抑制は主にトラックメーカーの回復遅れ、工事の長期化、建設や物流業界の人手不足に起因します。一方、輸入鉄鋼は通常水準で堅調に推移し、全体としては安定した実績を確保しました。下期は輸入鉄鋼の取扱量が増加する一方、国産鉄鋼の取扱量は上期と同様に構造的な人手不足や産業の回復遅れが短期間で解消されないため、引き続き低調に推移すると予測されます。これに対し、輸入鉄鋼はアンチダンピング関税導入予測を背景とした駆け込み需要により、取扱量増加が見込まれます。また、アメリカの関税政策が国内メーカーの輸出に影響を与え、国内市場への供給圧力上昇につながる可能性に注視が必要です。2025年度の動向は、主に輸入鉄鋼が下期に大きく伸長することにより、全体として上期実績を上回る取扱量増加での着地が見込まれます。国産鉄鋼は通期で低調な需給環境にあるものの、輸入鉄鋼の駆け込み需要が通期の取扱量を牽引します。国内市場は、構造的な人手不足による実需の抑制が続く一方で、関税政策の間接的な影響や輸入材価格高騰後の国産材への需要シフトという、重要な転換期に直面すると考えられます。

3. 非鉄金属について、

上期は取扱量と在庫量は一定水準を保ち、比較的安定しました。ただし、グローバルな需要リスクであるチャイナリスクの影響を受け、一部品目で在庫の積み上げが見られ、需給バランスが不安定になる側面があります。下期も市場動向は上期と同様の推移が継続すると予測され、チャイナリスクは継続的な懸念材料です。斯様な状況下で、製鉄工場におけるコスト削減の動きがありサプライチェーン全体に波及すると予測されます。今後は、物流、在庫管理、加工効率など、あらゆる側面でメーカーのコスト競争力強化に資する協業や提案が強く求められます。2025年度の非鉄金属の動向は、通期で安定した出庫水準を維持しつつも、グローバルなリスク要因と製鉄工場のコスト削減という相反する要素が混在する展開が予測されます。

4. 原材料部会の総括

輸入コスト高・価格不安定化と国内構造的要因による実需抑制という二つの大きな課題に直面しています。鉄鋼と木材では、輸入材が価格変動や関税予測による短期的な変動要因となる一方、国産材は人手不足や国産材シフトといった中長期的な構造的課題の影響を強く受ける展開が予測されます。今後は、サプライチェーン全体で、コスト競争力強化に資する協業や提案が一層強く求められる展開となります。

C. 【機器製品部会及びトランクルーム部会 報告】

本日は6社9名の出席をもちまして意見交換を行ってまいりました。
当部会加盟企業の取扱いとしましては金属製品、電気機械、その他機械、繊維系製品、雑品・雑貨、
トランクルーム及び文書保存です。

まず、機器製品部会についてです。

当部会が取り扱う品目については本年の第一四半期（4月から6月）における入庫・出庫の動向
を昨年と比較しますと、入庫は37.5%、出庫は34.3%と、大幅な縮小となっております。

この内容を品目別に見ますと、特に電気機械が入庫で28.4%、出庫で24.0%、
雑品が入庫24.6%、出庫24.3%と、それぞれ前年から大きく減少しており、これらが全体荷動き減少
の主要な要因となっております。また、その他製造工業品は入庫20.6%、出庫20.4%と、前年に
比べ大幅に落ち込んでおり、こちらも全体数値に影響を与えております。

一方で、残高については、資料のとおり前年よりも大きく圧縮された結果が示されており、
昨年度に一時的に計上されていた案件が解消されたことが要因のひとつと推察されます。

本日ご出席いただいている加盟企業様からはイベント・催事の輸送を絡めた保管品が増加。また、
「蛍光灯の2027年問題」に対応するためLED関連の商材が伸長しているとのご意見を伺うこと
ができました。

次にトランクルームについてですが、本日トランクルーム事業者様の出席がありませんでしたので具体的なお話を聞く事は出来ませんでしたが、近年、トランクルーム市場は堅調に拡大しており、
2008年以降15年連続で成長を続けています。2024年には約770億円規模に達し、今後も年率4～
5%の伸びが予測されており、2030年には1,000億円規模も視野に入っているそうです。

この背景には、都市部における住宅の床面積縮小や、リモートワークの普及・ライフスタイルの
多様化といった社会変化があります。また、ECの拡大による在庫保管需要、そして投資マネーの流
入も成長を後押ししていることなどが推察されます。

D. 【化学品部会 報告】

本日の化学品部会は、14社 20名で開催いたしました。

1. 上半期のまとめ

化学品部会は合成樹脂を取り扱っている会社が多数を占めるのでそこを中心に報告します。一部で前年比での取扱量や回転率が多少良くなっている会社もあるが全体的には 10~20%減で推移している。(品目によっては 30%減もあり)

工場の定期修理があることにより出荷量等の調整が発生し倉庫の取扱量及び在庫量に影響を与えててしまう。

定期修理は基本的に2年毎に実施されるので計画を立てることはできるが消費に左右されてしまふので調整しきれないこともありやり繩りが大変ではある。また昨今の石化再編の影響は大きく今後も取扱量等の改善は期待できないと予想している。

一部の会社は新規品目の取扱いも検討している。

2. トピックス

① 採用

特にフォークマンとドライバー不足が目立っていて、定着率は低くて離職率は高い。給料を上げられれば良いが中々難しく、休暇を増やすなど工夫をして何とか採用にこぎつけている。又、女性にできる作業をピックアップしてみたり外国人にも枠を広げ対応している会社もある。

② DX

一部の会社でDX専門部署を立ち上げたところもあるが各社進んでいないのが現状である。理由としては、倉庫業の作業はルーティングワーク的なものが少なく人の裁量によるところが多いからである。しかしながら DX 化の検討は必要であると考えている。

③ 熱中症

今夏も猛暑続きで現場作業は対策が必須であった。ファン付きのベストを採用したり WBGT で管理したり休憩や水分、塩飴を適宜取らせるなどできることをしている。これらの効果があつてか重症な体調不良者はでなかつた。

千葉県倉庫協会のホームページ

<http://www.soukoweb.jp/chiba/index.htm>

① 事務局からのお知らせ

② 会員のページ (毎月の残高報告)